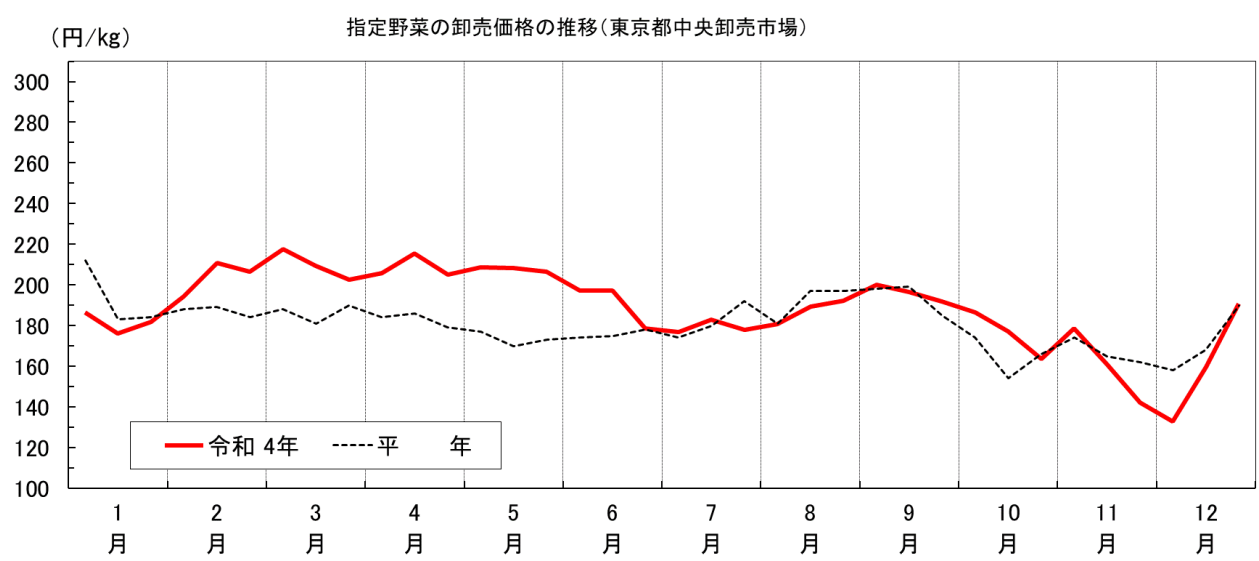


令和5年3月10日
野菜振興部

令和4年度緊急需給調整事業の実施状況について

1 令和4年産の主要野菜の需給・価格動向

令和4年産の指定野菜の需給・価格動向を見ると、3年12月までの前進出荷で年明け以降の出荷分まで出荷が進んだことに加え、寒波による低温干ばつ傾向で1月下旬以降の出荷分の生育が大幅に遅れたことから、2月から6月まで高値で推移した。7月以降は、葉茎菜類が適度な降雨で豊作基調となったことで安値となったものの、前線による大雨で根菜類が不作傾向で高値になるなど、品目により作況が大きく分かれた。9月に前線や台風で大雨があったものの、10月以降は温暖で台風等の影響がなかったことから生育が前進化し、11月には高値反動で下げ基調に転じ、同下旬には葉茎菜類を中心に安かった前年を下回る価格で推移し、12月は前進出荷と気温低下で果菜類を中心に前年を上回る価格となったものの、葉茎菜類などは前年を下回る価格で推移した。



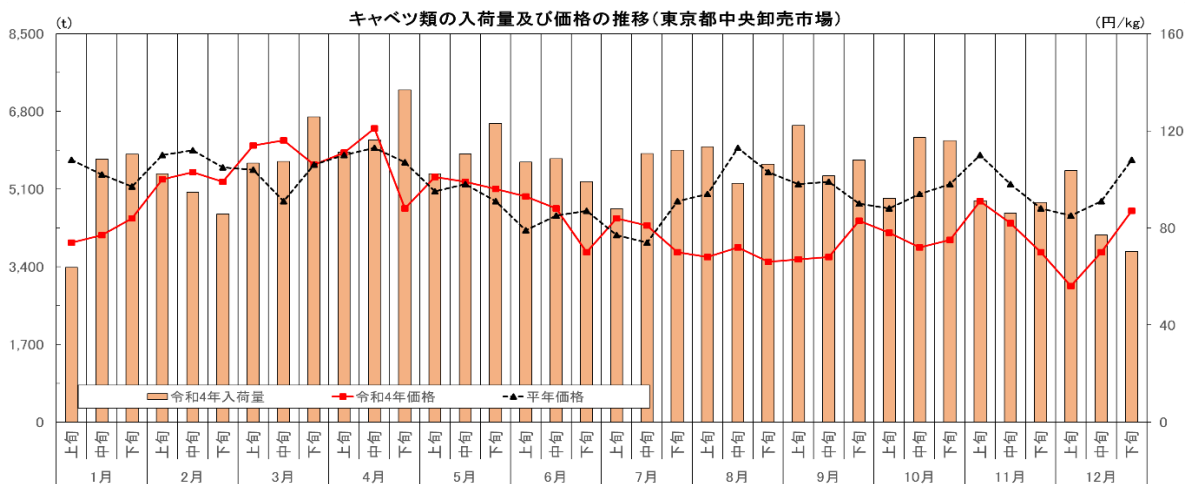
資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注：平年とは、過去5カ年（平成29年～令和3年）の旬別価格の平均値である。

令和4年度に緊急需給調整事業を実施した野菜の需給・価格動向は以下のとおり。

(1) キャベツ

キャベツの価格は、5月までが低温干ばつ傾向で入荷量が伸びなかったために堅調に推移したものの、6月以降は準高冷地及び高冷地産が安定入荷したことから下げに転じ、産地が中間地に切り替わった11月は干ばつ傾向で入荷量が伸びず、一時的に上げに転じたものの、需要が伸びなかったことから12月には下げに転じた。

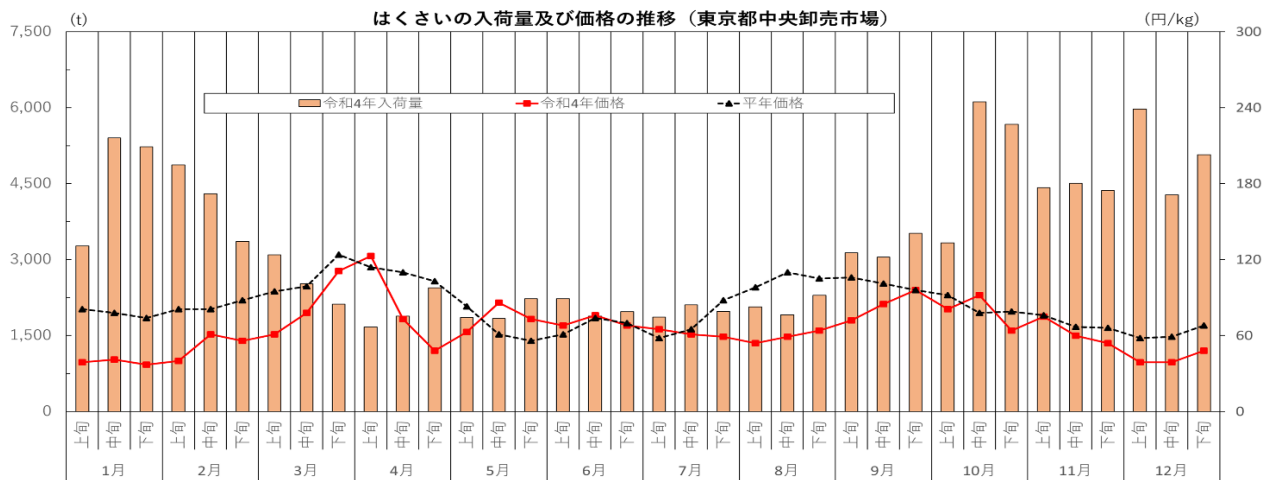


資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注：平年とは、過去5カ年（平成29年～令和3年）の旬別価格の平均値である。

(2) はくさい

はくさいの価格は、4月までは需要に支えられて安定し、5月が低温干ばつ傾向で入荷量が伸びなかったために上伸したものの、6月以降は準高冷地及び高冷地産が安定入荷したことから下げに転じ、産地が中間地に切り替わった11月は干ばつ傾向で入荷量が伸びず、一時的に上げに転じたものの、12月には生育が回復して豊作基調になってきたことから下げに転じた。

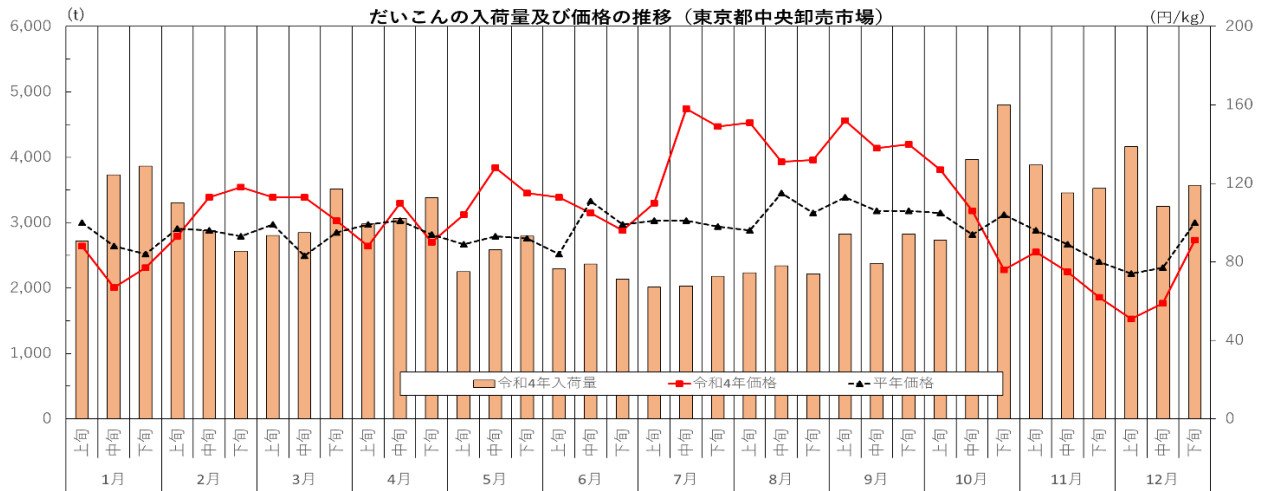


資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注：平年とは、過去5カ年（平成29年～令和3年）の旬別価格の平均値である。

(3) だいこん

だいこんの価格は、5月までが低温干ばつ傾向で入荷量が伸びなかったこと、高冷地産に切り替わった6月は入荷量が安定した中でも需要に支えられたこと、7月は日照不足、8月以降は干ばつとその後の過湿により堅調に推移したものの、11月以降は干ばつ傾向で入荷量が伸びなかった中、高値反動に加えて需要が伸びなかったことから下げに転じた。

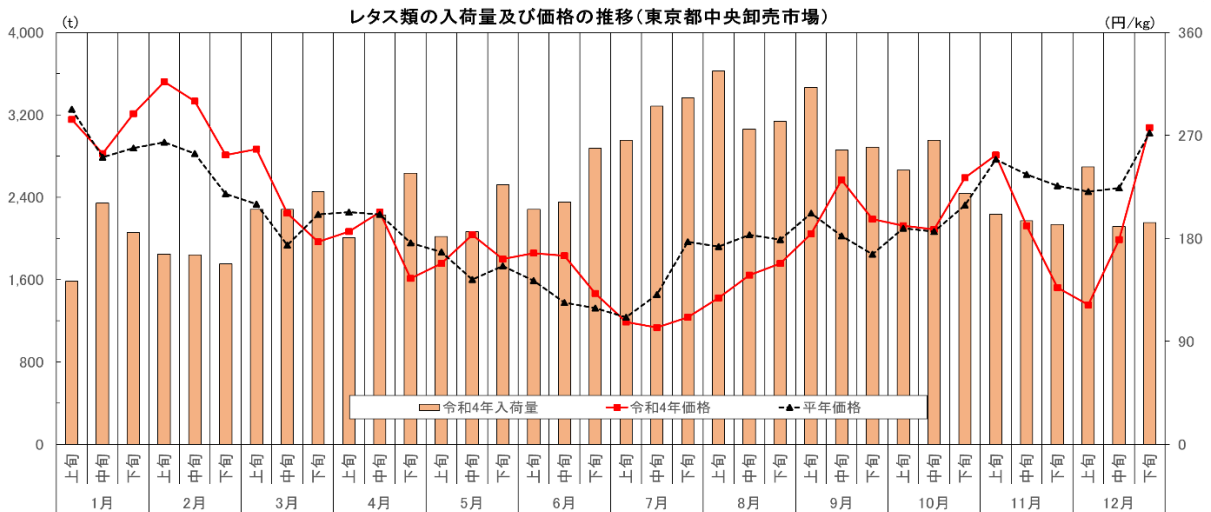


資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注：平年とは、過去5カ年（平成29年～令和3年）の旬別価格の平均値である。

(4) レタス

レタスの価格は、5月までが低温干ばつ傾向で入荷量が伸びなかったために堅調に推移したものの、準高冷地及び高冷地産に切り替わった6月は入荷減により上伸したものの、7月には高温による品質低下で下げに転じ、産地が中間地に切り替わった10月は降雨の影響で一時的に上げに転じたものの、11月以降は干ばつ傾向で入荷量が伸びなかった中、高値反動に加えて需要が伸びなかったことから下げに転じた。



資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注：平年とは、過去5カ年（平成29年～令和3年）の旬別価格の平均値である。

2 野菜価格安定制度の実績

令和4年度は、春先の低温の影響により価格は平均価格を上回ったものの、夏以降は、多雨の一方で適度な日照もあったため、価格は平年並みか平年を下回って推移したことから、交付額は例年に引き続き100億円を上回ることが見込まれる。

○指定野菜価格安定対策事業の実績（会計年度ベース）

（単位：億円）

年度	H25	H26	H27	H28	H29
交付金額	97 (61)	95 (60)	62 (41)	91 (58)	126 (77)
年度	H30	R元	R2	R3	R4 (注)
交付金額	139 (81)	189 (116)	188 (116)	198 (121)	89 (55)

注1) 括弧書きは、国庫負担分

注2) 令和4年度は令和5年1月末時点の年度実績

3 令和4年度の緊急需給調整事業の実施状況

(1) 緊急需給調整事業の見直し

国では、食料・農業・農村基本計画において、豊作時の価格低落や不作時の価格高騰を防止・緩和するための具体策の検討が位置づけられたことを受け、関係機関と野菜の需給調整の在り方について協議を重ねた結果、近年の極端な気象変動や流通・消費構造の変化等に対応した、実効性の高い需給調整の仕組みが必要との結論から、緊急需給調整事業の見直し（交付金単価の引上げや生産者負担の引下げ等）を令和3年度より実施。

(2) フードバンクへの無償提供

本事業では、産地調整によって廃棄せざるを得ない野菜をできる限り無駄にせずと食べていただくために、出荷団体等によるフードバンク等への野菜の無償提供を支援している。令和4年度は、26件48トン（令和5年2月末現在。実施予定分含む。）がフードバンク等を通じて子ども食堂、児童福祉施設、外国人支援団、炊き出し団体、パントリー活動団体へ無償提供されている。取組状況は下表のとおり。なお、緊急需給調整事業に取り組む出荷団体等が増加する中で、フードバンクの提供先も全国的な広がりを見せている。

実施時期	対象品目	実施主体	提供数量	主な提供先
7月中旬	夏秋レタス	全農長野県本部	1,000kg	セカンドハーベストジャパン
7月下旬	夏秋レタス	全農群馬県本部	300kg	NPO 法人三松会
7月下旬	夏秋レタス	全農長野県本部	1,000kg	セカンドハーベストジャパン
8月上旬	夏秋レタス	全農岩手県本部	28kg	わっこの家青山、フードバンク岩手、みちのくみどり学園、和光学園
8月上旬	夏秋レタス	全農長野県本部	300kg	セカンドハーベストジャパン
8月中旬	夏秋レタス	全農群馬県本部	300kg	NPO 法人三松会
8月下旬	夏秋キャベツ	全農群馬県本部	500kg	NPO 法人三松会
8月下旬	夏秋キャベツ	全農長野県本部	500kg	セカンドハーベストジャパン埼玉拠点
8月下旬	夏はくさい	全農長野県本部	450kg	セカンドハーベストジャパン埼玉拠点
9月上旬	夏秋キャベツ	全農岩手県本部	450kg	滝沢市社会福祉協議会、わっこの家青山、和光学園、フードバンク岩手、みちのくみどり学園
9月下旬	夏秋キャベツ	浅間蔬菜組合	112kg	NPO 法人三松会
12月上旬	冬レタス	全農長崎県本部	200kg	フードバンク協和
12月上中旬	冬レタス	全農福岡県本部	1,000kg	福岡県フードバンク協議会
12月下旬	冬キャベツ	全農福岡県本部	300kg	福岡県フードバンク協議会
12月中旬	秋冬だいこん	全農福岡県本部	520kg	福岡県フードバンク協議会
12月中下旬	秋冬だいこん	全農千葉県本部	2,000kg	(予定)

実施時期	対象品目	実施主体	提供数量	主な提供先
12月下旬	秋冬はくさい	全農茨城県本部	1,300kg	フードバンク茨城
12月中下旬	冬レタス	全農福岡県本部	1,340kg	福岡県フードバンク協議会
12月中下旬	冬レタス	全農茨城県本部	1,000kg	(予定)
12月中下旬	冬レタス	全農千葉県本部	1,000kg	(予定)
12月中下旬	冬レタス	愛知県経済連	20kg	赤羽根学園
12月下旬	秋冬だいこん	全農神奈川県本部	31,000kg	(予定)
12月下旬	冬レタス	全農長崎県本部	100 kg	フードバンク協和
1月上旬	秋冬はくさい	鹿児島県経済連	1,500kg	フードバンクそお
1月下旬	秋冬はくさい	全農茨城県本部	2,000kg	(予定)
1月下旬	秋冬はくさい	全農群馬県本部	260kg	NPO 法人三松会
合計			48,380kg	

(2) 事業実施状況

制度の見直しに加え、事業の対象野菜の多くで価格が低落傾向で推移したことから、令和4年度の事業実施状況は、キャベツ、はくさい、だいこん、レタスで実施しており、数量で約3万トン、交付金額で約1.4億円（いずれも令和5年2月末現在の概算値）と、平成19年度以降最大規模となった令和3年度を上回る規模となる見込みである。フードバンクへの提供を含めた事業実施状況は、下表のとおり。

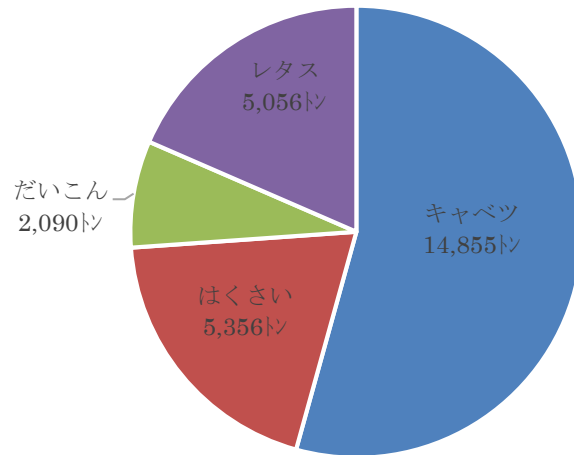
実施時期	対象品目	実施主体	実施数量	実施手法
7月中旬	夏秋レタス	全農長野県本部	1,584 トン	市場隔離（有効利用用途） 産地調整（出荷抑制）
7月中下旬	夏秋レタス	全農群馬県本部	230 トン	市場隔離（有効利用用途） 産地調整（出荷抑制）
7月下旬	夏秋レタス	全農長野県本部	2,154 トン	市場隔離（有効利用用途） 産地調整（出荷抑制）
8月上旬	夏秋レタス	全農岩手県本部	10 トン	市場隔離（有効利用用途） 産地調整（出荷抑制）
		全農長野県本部	645 トン	
8月上中旬	夏秋レタス	全農群馬県本部	114 トン	市場隔離（有効利用用途） 産地調整（出荷抑制）
8月中下旬	夏秋キャベツ	全農群馬県本部	14,226 トン	市場隔離（有効利用用途） 産地調整（出荷抑制）
	夏はくさい	全農長野県本部	2,231 トン	
8月下旬	夏秋キャベツ	全農長野県本部	242 トン	市場隔離（有効利用用途） 産地調整（出荷抑制）
		浅間蔬菜組合（群馬）	70 トン	
9月上旬	夏秋キャベツ	全農岩手県本部	208 トン	市場隔離（有効利用用途） 産地調整（出荷抑制）
9月中下旬	夏秋キャベツ	浅間蔬菜組合	58 トン	市場隔離（有効利用用途） 産地調整（出荷抑制）
12月上中旬	冬レタス	全農長崎県本部	95 トン	市場隔離（有効利用用途） 産地調整（出荷抑制）
		全農福岡県本部	63 トン	
		全農兵庫県本部	65 トン	市場隔離（その他市場隔離（一時保管））

実施時期	対象品目	実施主体	実施数量	実施手法
12月中旬	冬レタス	全農兵庫県本部	7 トン	市場隔離(その他市場隔離(一時保管))
		鷹博農園(長崎)	15 トン	産地調整 (出荷抑制)
		(株)マルマサセーフティー農場(長崎)	4 トン	
		(有)松山ファーム(長崎)	18 トン	
		(株)アクアドリーム(長崎)	3 トン	
		(株)グリーンファーム絆(長崎)	7 トン	
		(株)柳ファーム(長崎)	11 トン	
12月中下旬	冬キャベツ	全農福岡県本部	50 トン	市場隔離 (有効利用用途) 産地調整 (出荷抑制)
	秋冬はくさい	全農茨城県本部	1,387 トン	
	秋冬だいこん	全農千葉県本部	1,293 トン	
	冬レタス	全農福岡県本部	1 トン	市場隔離 (有効利用用途)
		全農茨城県本部	82 トン	市場隔離 (有効利用用途) 産地調整 (出荷抑制)
		全農千葉県本部	12 トン	
		愛知県経済連	4 トン	
		全農福岡県本部	1 トン	市場隔離 (有効利用用途)
12月下旬	秋冬だいこん	全農神奈川県本部	796 トン	市場隔離 (有効利用用途) 産地調整 (出荷抑制)
	冬レタス	全農長崎県本部	4 トン	
12月下旬～1月上旬	秋冬はくさい	鹿児島県経済連	866 トン	市場隔離 (有効利用用途) 産地調整 (出荷抑制)
1月下旬	秋冬はくさい	全農茨城県本部	799 トン	市場隔離 (有効利用用途) 産地調整 (出荷抑制)
		全農群馬県本部	73 トン	

※ 実施数量は、交付対象数量又は実施計画数量を記載。

※ 令和5年2月末現在。

令和4年度緊急需給調整事業の実施状況（2月現在）



<参考> 緊急需給調整事業の実施状況

年度	実施状況	数量 (トン)	交付金 (千円)
平成 19 年度	出荷の後送り : 冬キャベツ、秋冬だいこん 市場隔離 : 秋冬だいこん、秋冬はくさい	4,721	119,455
平成 20 年度	市場隔離 : 夏秋キャベツ、夏だいこん	6,485	208,937
平成 21 年度	市場隔離 : 夏はくさい	1,119	40,284
平成 22 年度	出荷の前倒し : 春キャベツ、たまねぎ 市場隔離 : 夏はくさい	1,503	52,736
平成 23 年度	—	—	—
平成 24 年度	市場隔離 : 夏秋キャベツ、夏はくさい	11,348	355,522
平成 25 年度 ～平成 28 年度	—	—	—
平成 29 年度	加工用販売 : 秋にんじん	1,486	45,890
平成 30 年度 ～令和元年度	—	—	—
令和 2 年度	市場隔離 : 冬キャベツ、夏秋レタス、 秋冬はくさい 出荷の後送り : たまねぎ、秋冬だいこん、 秋冬はくさい	16,511	400,488

年度	実施状況	数量 (トン)	交付金 (千円)
令和3年度	市場隔離 : 春はくさい、春レタス、 夏秋レタス、夏はくさい、 夏秋キャベツ、冬レタス、 秋冬はくさい、 秋冬だいこん、冬にんじん 出荷抑制 : 夏秋レタス、夏はくさい、 夏秋キャベツ、冬レタス、 秋冬はくさい、冬キャベツ、 秋冬だいこん、冬にんじん	25,553	1,260,160
令和4年度	市場隔離 : 夏秋レタス、夏はくさい、 夏秋キャベツ、冬キャベツ、 冬レタス、秋冬はくさい、 秋冬だいこん 出荷抑制 : 夏秋レタス、夏はくさい、 夏秋キャベツ、冬キャベツ、 冬レタス、秋冬はくさい、 冬キャベツ、秋冬だいこん	27,357 (見込)	1,410,152 (見込)

※令和4年度は、令和5年2月末現在。